

News Release

2012年4月25日

転職サービス「DODA(デューダ)」調べ
2012年1月-3月 転職求人倍率
3月は1.23倍。求人数、転職希望者数は前年同時期の120%

株式会社インテリジェンス(本社:東京都千代田区、代表取締役兼社長執行役員:高橋広敏)が運営する転職サービス「DODA(デューダ)」<<http://doda.jp/>>は、2012年1月から3月の転職求人倍率をまとめた「DODA 転職求人倍率レポート」2012年4月号を発売しましたのでお知らせします。

転職求人倍率は、ホワイトカラー層を中心とした転職マーケットにおける需給バランスを表すもので、DODA 転職支援サービス登録者(転職希望者)1名に対して、中途採用の求人が何件あるかを算出した数値になります。

※算出式: 転職求人倍率=求人数(採用予定人員)÷転職希望者数

■ 2012年1月-3月の概況

2012年3月の求人倍率は1.23倍で、2011年12月の1.36倍をピークに低下。年度末に向けて採用活動を収束させる企業が多かった反面、4月入社を目指す転職希望者は増加したことが背景にあります。一方、全体の求人数と転職希望者数は、どちらも前年同時期の約120%で推移しており、人材流動が活発化していることが伺えます。

■ 業種別の転職求人倍率

	2012年					
	1月		2月		3月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.28	▲ 0.08	1.23	▲ 0.05	1.23	0.00
IT/通信/インターネット	1.89	0.05	1.92	0.03	2.05	0.13
メディア	1.00	0.11	1.02	0.02	1.07	0.05
金融	0.73	▲ 0.09	0.68	▲ 0.05	0.67	▲ 0.01
メディカル	3.15	▲ 0.06	2.93	▲ 0.22	2.11	▲ 0.82
メーカー	1.17	▲ 0.13	1.10	▲ 0.07	1.09	▲ 0.01
商社/流通	0.31	▲ 0.04	0.30	▲ 0.01	0.31	0.01
小売/外食	0.70	▲ 0.06	0.67	▲ 0.03	0.78	0.11
サービス	1.31	▲ 0.09	1.30	▲ 0.01	1.39	0.09
その他	0.47	▲ 0.06	0.49	0.02	0.50	0.01

■ 職種別の転職求人倍率

	2012年					
	1月		2月		3月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.28	▲ 0.08	1.23	▲ 0.05	1.23	0.00
営業系	1.08	▲ 0.12	1.03	▲ 0.05	1.05	0.02
企画・事務系	0.76	▲ 0.05	0.74	▲ 0.02	0.75	0.01
技術系(IT/通信)	2.00	0.14	2.11	0.11	2.18	0.07
技術系(電気/電子/機械)	2.23	▲ 0.20	2.04	▲ 0.19	2.01	▲ 0.03
技術系(メディカル)	3.54	0.12	3.45	▲ 0.09	2.16	▲ 1.29
技術系(化学/食品)	1.12	0.01	0.97	▲ 0.15	1.02	0.05
技術系(建築/土木)	1.65	0.11	1.55	▲ 0.10	1.75	0.20
専門職系(コンサルタント/金融/不動産)	1.31	▲ 0.06	1.27	▲ 0.04	1.33	0.06
クリエイティブ系	1.29	▲ 0.05	1.32	0.03	1.45	0.13
販売・サービス系	0.51	▲ 0.12	0.49	▲ 0.02	0.56	0.07
事務・アシスタント系	0.70	▲ 0.14	0.70	0.00	0.75	0.05

※ より詳細な分析やDODA編集長の解説が掲載されている「DODA 転職求人倍率レポート」は、DODA サイトでご覧いただけます。http://saiyo.inte.co.jp/report/report_201204.html

※ 調査は2008年より行っております。過去のデータをご覧になりたい場合は、広報部までお問い合わせください。

本件に関するお問合せ先
<http://www.inte.co.jp/corporate/other/inquiry.html>

DODA 転職求人倍率レポート

～業種別・職種別に読み解く転職市場動向～

株式会社インテリジェンス（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：高橋広敏）が運営する転職サービス「DODA（デューダ）」<<http://doda.jp/>>は、業種別・職種別の求人倍率を算出し、「DODA 転職求人倍率レポート」として発表しています。このデータは、9業種ごと、11職種ごとに求人倍率を算出しており、転職マーケットにおける需給トレンドなどを表すものです。

2012年
4月号
2012年4月23日発行

2012年3月の求人倍率は1.23倍。求人数、転職希望者数は前年同時期の120%

2012年3月の求人倍率は1.23倍で、2011年12月の1.36倍をピークに低下。年度末に向けて採用活動を収束させる企業が多かった反面、4月入社を目指す転職希望者は増加したことが背景にあります。一方、全体の求人数・転職希望者数は、どちらも前年同時期の約120%で推移しており、人材流動が活発化していることがうかがえます。

企業の動向に着目すると、人材の多くを新卒で担保する大手の金融・商社・メーカーなどは、年度末からゴールデンウィーク明けまで新卒採用に注力します。そのため、人事が中途採用に手を割けず、新規求人を積極的に出さない企業が現れます。今年は特にそうした動きが顕著で、(1)新卒の採用人数が増えた、(2)就職協定により4月から一斉に始まる採用活動の準備が2～3月に集中した、などの要因が考えられます。ただし5月下旬～6月頃からは、大手メーカーを中心に50～100名規模の採用が始まる見通しです。また、年間の採用スケジュールに沿って数百名単位のMR(医薬情報担当者)を募集する製薬メーカーやCSO(医薬品販売受託機関)も、2月末で採用活動をほぼ停止。採用活動の再開は夏以降になると予想されます。

一方、景気回復や需要拡大により、即戦力人材を中途採用で確保する業種も見られます。企業の販促活動が活発になり、ソーシャルメディアやスマートフォンなど新たな広告展開のニーズが高まるメディア。消費者の購買意欲の高まりや海外展開に乗り出す企業が増えた小売・外食。震災の復興需要による影響を色濃く受けている建築・土木系。これらの業職種は、3月の求人倍率が2008年1月以降で最高値となっています。また、以前から採用活動が活発なITも、スマートフォンやSNSの需要拡大により引き続き活況です。

業種別の転職市場動向(全国)

3月の求人倍率は、9業種中6業種が前月から上昇。求人倍率は「メディカル」が最も高く2.11倍ですが、前月比では最も低下(-0.82)しています。次いで求人倍率の高い「IT/通信/インターネット(2.05倍)」は、前月比で最も上昇(+0.13)し、メディカルに大きく近づいています。

業種	業種別の転職求人倍率					
	2012年					
	1月		2月		3月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.28	▲0.08	1.23	▲0.05	1.23	0.00
IT/通信/インターネット	1.89	0.05	1.92	0.03	2.05	0.13
メディア	1.00	0.11	1.02	0.02	1.07	0.05
金融	0.73	▲0.09	0.68	▲0.05	0.67	▲0.01
メディカル	3.15	▲0.06	2.93	▲0.22	2.11	▲0.82
メーカー	1.17	▲0.13	1.10	▲0.07	1.09	▲0.01
商社/流通	0.31	▲0.04	0.30	▲0.01	0.31	0.01
小売/外食	0.70	▲0.06	0.67	▲0.03	0.78	0.11
サービス	1.31	▲0.09	1.30	▲0.01	1.39	0.09
その他	0.47	▲0.06	0.49	0.02	0.50	0.01

※「転職求人倍率」は小数第三位を四捨五入。また、「転職求人倍率」の除数となる転職希望者数の業種(職種)については、希望業種(職種)ではなく近隣の経験業種(職種)に準じている。

職種別の転職市場動向(全国)

3月の求人倍率は、11職種中9職種で上昇。「技術系(メディカル)」(-1.29)と、「技術系(電気/電子/機械)」(-0.03)が低下しています。3年3カ月にわたり求人倍率トップを維持していた「技術系(メディカル)」(2.16倍)が大きく低下したことで、「技術系(IT/通信)」(2.18倍)がトップに入れ替わりました。また、前月比で最も上昇しているのは「技術系(建築/土木)」(+0.20)で、震災の復興需要の影響が色濃く出ています。

職種	職種別の転職求人倍率					
	2012年					
	1月		2月		3月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.28	▲0.08	1.23	▲0.05	1.23	0.00
営業系	1.08	▲0.12	1.03	▲0.05	1.05	0.02
企画・事務系	0.76	▲0.05	0.74	▲0.02	0.75	0.01
技術系(IT/通信)	2.00	0.14	2.11	0.11	2.18	0.07
技術系(電気/電子/機械)	2.23	▲0.20	2.04	▲0.19	2.01	▲0.03
技術系(メディカル)	3.54	0.12	3.45	▲0.09	2.16	▲1.29
技術系(化学/食品)	1.12	0.01	0.97	▲0.15	1.02	0.05
技術系(建築/土木)	1.65	0.11	1.55	▲0.10	1.75	0.20
専門職系(コンサルタント/金融/不動産)	1.31	▲0.06	1.27	▲0.04	1.33	0.06
クリエイティブ系	1.29	▲0.05	1.32	0.03	1.45	0.13
販売・サービス系	0.51	▲0.12	0.49	▲0.02	0.56	0.07
事務・アシスタント系	0.70	▲0.14	0.70	0.00	0.75	0.05

※「転職求人倍率」は小数第三位を四捨五入。また、「転職求人倍率」の除数となる転職希望者数の業種(職種)については、希望業種(職種)ではなく直近の経験業種(職種)に準じている。

D ODA 編集長の解説

2012年は企業・転職希望者ともに、「攻め」の年になるでしょう。欧州の金融危機や円高に収束の目処が立ち、先行きに明るさが見え始めた企業は、新製品・新サービスの開発や販促活動を活発化。採用ニーズも高まり、2012年1～3月の求人数は3年前の約1.5倍で推移しています。また、新たな戦力や視点を社内に取り入れるため、経験やスキルだけでなく、ポテンシャルや将来性の高さを重視する採用も増加。転職希望者も、経験を活かした同業種・同職種への転職だけでなく、今までのキャリアを応用できる異業種・異職種へ転職するチャンスが広がるでしょう。こうしたチャンスを掴むためには、「自分のスキルはここで活かせるはず」と限定してしまうのは禁物。今までの経験で培ってきたスキルを分解し、「この能力は〇〇に活用できる」と自己分析することが重要です。

また、一昨年から急速にニーズが伸びているグローバル人材の採用はさらに加速する見込み。メーカーや商社だけでなく、外食やサービス業など、内需中心だった産業も海外展開に乗り出しており、企業では外国人留学生や帰国子女など、グローバル人材の確保に力を入れています。中途採用においても、高い語学力や海外で通用する専門スキルを有していることが、採用の絶対条件になる日も遠くないでしょう。

今後、夏場にかけては、電力供給不足による生産活動の縮小が懸念されています。注目される新エネルギービジネスについては、未だ消費者ニーズが追いつかず、ビジネスとして成立し採用ニーズが高まるのは、来年以降になるでしょう。一方、オリンピックによる経済効果は、一時的に求人倍率へもプラスに働く可能性があります。(DODA編集長 美濃啓貴)

転職求人倍率の定義…「転職求人倍率」は、DODA 転職支援サービス登録者1名に対して、中途採用の求人が何件あるかを算出した数値。算出式は以下の通りとなる。

$$[\text{転職求人倍率} = \text{求人数 (採用予定人員)} \div \text{転職希望者数}]$$

【求人数】前月からの繰越求人数(採用予定人員)と、当月中に新たに登録された新規求人数(採用予定人員)を合算した数で算出。

【転職希望者数】前月からDODA 転職支援サービスに継続登録している繰越登録者数と、当月中に新たに登録した新規登録者数を合算した数で算出。

ただし、繰越登録者数に関しては、直近半年以内の登録者数を採用している。

2012年3月、関西エリアの転職求人倍率は1.28倍。4月以降は家電・化学大手も採用再開へ。

■DODA関西支社ゼネラルマネジャーの解説

2012年3月、関西エリアの転職求人倍率は1.28倍となりました。2011年12月の1.41倍を最高値として、3カ月連続の低下です。例年、1～3月は4月入社に向けた転職希望者が増加しますが、年度末ということもあり、企業各社は2011年度の採用活動を終了させたためです。特に、大型採用を行っていた製薬会社やCSO(医薬品販売受託機関)のMR(医薬情報担当者)募集が年度末で終わりを迎え、数百名単位の採用枠がいくつもクローズしたことが大きく影響を与えています。

4月以降の動きとしては、リーマン・ショック後に中途採用を凍結させていた関西本社の大手家電メーカーや、大手化学メーカーが久しぶりに数十名規模の中途採用を再開します。この3年間採用を抑制していましたが、団塊世代が労働市場から引退する「2012年問題」および現場からの強い人材補強ニーズを背景に、いよいよ動き出したという様相です。募集職種は回路設計、機械設計、プラント施工管理など技術職が中心となります。そのほか建築・土木系については、引き続き復興需要を背景に旺盛な採用ニーズが継続するでしょう。直近の転職求人倍率にもそのニーズは表れており、震災前の2011年2月の求人倍率は1.31倍でしたが、最新2012年3月は2.51倍と、プラス1.20上昇しています。現在、「技術系(メディカル)」に次いで2番目に高い水準です。建築・土木系の採用ニーズは今後もしばらくは高い水準で推移すると見られます。(DODA関西支社ゼネラルマネジャー 木村浩明)

■業種別の転職市場動向(関西エリア)

業種別の転職求人倍率を見ると、3月は「メディカル」が3.33倍と最も高く、次いで、「IT/通信/インターネット」(1.59倍)、「サービス」(1.55倍)となった。

業種	2012年					
	1月		2月		3月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.34	▲0.07	1.30	▲0.04	1.28	▲0.02
IT/通信/インターネット	1.13	0.04	1.20	0.07	1.59	0.39
メディア	0.34	▲0.04	0.41	0.07	0.42	0.01
金融	0.86	▲0.12	0.88	0.02	0.86	▲0.02
メディカル	4.63	0.01	4.31	▲0.32	3.33	▲0.98
メーカー	1.20	▲0.07	1.13	▲0.07	1.05	▲0.08
商社/流通	0.24	▲0.03	0.22	▲0.02	0.19	▲0.03
小売/外食	1.28	▲0.05	1.22	▲0.06	1.34	0.12
サービス	1.45	▲0.05	1.45	0.00	1.55	0.10
その他	0.24	▲0.04	0.41	0.17	0.42	0.01

■職種別の転職市場動向(関西エリア)

職種別の転職求人倍率を見ると、3月は「技術系(メディカル)」が3.08倍と最も高く、次いで、「技術系(建築/土木)」(2.51倍)、「技術系(電気/電子/機械)」(2.24倍)となった。

職種	2012年					
	1月		2月		3月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.34	▲0.07	1.30	▲0.04	1.28	▲0.02
営業系	1.35	▲0.19	1.32	▲0.03	1.28	▲0.04
企画・事務系	0.70	0.03	0.70	0.00	0.67	▲0.03
技術系(IT/通信)	0.89	0.01	0.95	0.06	1.26	0.31
技術系(電気/電子/機械)	2.37	▲0.17	2.26	▲0.11	2.24	▲0.02
技術系(メディカル)	4.66	0.51	4.57	▲0.09	3.08	▲1.49
技術系(化学/食品)	1.11	0.06	0.92	▲0.19	1.03	0.11
技術系(建築/土木)	1.99	0.39	1.91	▲0.08	2.51	0.60
専門職系(コンサルタント/金融/不動産)	0.78	▲0.02	0.84	0.06	0.80	▲0.04
クリエイティブ系	0.79	▲0.12	0.78	▲0.01	0.74	▲0.04
販売・サービス系	0.79	▲0.08	0.74	▲0.05	0.83	0.09
事務・アシスタント系	0.87	▲0.27	0.84	▲0.03	0.87	0.03

※「転職求人倍率」は小数第三位を四捨五入。また、「転職求人倍率」の除数となる転職希望者数の業種については、希望業種ではなく直近の経験業種に準じている。

※想定勤務地に関西エリアが含まれる求人、および、希望勤務地に関西エリアが含まれる転職希望者が集計対象。(大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県)

2012年3月、中部エリアの転職求人倍率は1.51倍。建築土木系は3.08倍で過去最高に。

■DODA中部支社ゼネラルマネジャーの解説

2012年3月、中部エリアの転職求人倍率は1.51倍となり、3カ月連続の減少となりました。年度末ということもあり、採用活動を終了する企業が多かった反面、転職希望者が増加したことが背景です。とりわけ、「技術系（建築・土木）」が3.08倍と、調査以来最高水準となりました。震災後に大きく高まった復興需要のほか、新東名高速道路の建設や名古屋駅前の再開発など、大型開発が続いているためです。そのほか、大手自動車部品メーカー各社の業績が極めて順調であり、たいへん意欲的に採用活動を行っています。なかでも国内・外資自動車メーカーの新興国市場開拓に向けた求人ニーズが高騰していますが、いずれの企業も採用には苦戦しています。

2012年の上半期は、原油高の高騰、夏の電力リスクを見逃すことはできず、楽観視はできない状態ですが、景況感の緩やかな回復とともに、求人も増加する見通しです。ただ今年は、新卒採用の面接開始が12月以降からと例年より遅れており、その分、春先の中途採用の本格化が遅くなる可能性があります。実際に3月には、人事担当者や現場面接官が新卒採用にシフトしたことにより、中途採用の選考期間が長引くという事例も発生しています。例年ならば5月の大型連休ごろには新卒採用から中途採用へと転換するのですが、今年はそのタイミングが1カ月くらい遅れる可能性があります。（DODA中部支社ゼネラルマネジャー 鈴木理裕）

■業種別の転職市場動向(中部エリア)

業種別の転職求人倍率を見ると、3月は「メディカル」が4.13倍と最も高く、次いで、「サービス」(2.04倍)、「小売/外食」(1.95倍)となった。

業種	業種別の転職求人倍率					
	2012年					
	1月		2月		3月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.60	▲0.07	1.54	▲0.06	1.51	▲0.03
IT/通信/インターネット	0.91	0.05	0.96	0.05	1.46	0.50
メディア	0.38	0.02	0.39	0.01	0.35	▲0.04
金融	1.40	▲0.09	1.32	▲0.08	1.18	▲0.14
メディカル	5.38	▲0.12	4.78	▲0.60	4.13	▲0.65
メーカー	1.34	▲0.15	1.32	▲0.02	1.25	▲0.07
商社/流通	0.33	▲0.05	0.30	▲0.03	0.20	▲0.10
小売/外食	1.87	▲0.09	1.79	▲0.08	1.95	0.16
サービス	2.00	0.04	2.03	0.03	2.04	0.01
その他	0.39	▲0.04	0.38	▲0.01	0.42	0.04

■職種別の転職市場動向(中部エリア)

職種別の転職求人倍率を見ると、3月は「技術系（メディカル）」が3.25倍と最も高く、次いで、「技術系（建築/土木）」(3.08倍)、「技術系（電気/電子/機械）」(2.82倍)となった。

職種	職種別の転職求人倍率					
	2012年					
	1月		2月		3月	
	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差	求人倍率	前月差
全体	1.60	▲0.07	1.54	▲0.06	1.51	▲0.03
営業系	1.98	▲0.15	1.87	▲0.11	1.66	▲0.21
企画・事務系	0.64	0.03	0.61	▲0.03	0.61	0.00
技術系（IT/通信）	0.67	0.01	0.67	0.00	0.91	0.24
技術系（電気/電子/機械）	2.88	▲0.31	2.81	▲0.07	2.82	0.01
技術系（メディカル）	4.25	0.40	4.30	0.05	3.25	▲1.05
技術系（化学/食品）	0.95	0.03	0.81	▲0.14	1.00	0.19
技術系（建築/土木）	2.87	0.70	2.60	▲0.27	3.08	0.48
専門職系（コンサルタント/金融/不動産）	0.72	▲0.20	0.89	0.17	0.82	▲0.07
クリエイティブ系	0.53	▲0.10	0.57	0.04	0.61	0.04
販売・サービス系	1.00	▲0.29	0.96	▲0.04	1.10	0.14
事務・アシスタント系	0.97	▲0.12	0.87	▲0.10	1.09	0.22

※「転職求人倍率」は小数第三位を四捨五入。また、「転職求人倍率」の除数となる転職希望者数の業種については、希望業種ではなく直近の経験業種に準じている。

※想定勤務地に中部エリアが含まれる求人、および、希望勤務地に中部エリアが含まれる転職希望者が集計対象。（愛知県、三重県、岐阜県、静岡県）